



勝瀬小学校区防災連絡会
会長 清野 善雄さん

住民同士のつながりを高めて地域の防災力の向上を

町会や地区社協、消防団、勝瀬小学校の関係者などで構成されている当会は、東日本大震災時に、市内でも災害の少ない勝瀬小学校区でも防災に注力しなければならぬことに気付かされ、平成25年に発足しました。各団体と協力してまちの危険な場所の特定や避難時に支援が必要な方の把握などに努めています。

災害時の連携力をさらに高めるため、住民同士のつながりを深める取組みを進め、地域の防災力をさらに向上させていきたいと思っています。

「わがまちはわが手で守る」ための備え

結束力が持ち味の富士見市消防団は現在107人。「わがまちはわが手で守る」という理念のもと、市内各分団で定期的に消防用資機材の点検整備や訓練を行い、災害が発生した際に力を発揮できるよう備えています。

非常勤の公務員であると同時に市民でもある消防団員には、自助・共助・公助の間をつなぐ役割があると思います。より住民に寄り添った支援・指示ができるよう研鑽を積んでいきます。また、住民の皆さんの防災意識の向上に近道はありません。非常用持出品の準備など、基本的な部分を地道に啓発していきたいと考えています。



富士見市消防団
団長 横山 政幸さん



町会や自主防災組織を中心に、市内各地で防災訓練が開催されている(写真：つるせ台小学校区)。

突如襲いかかる「その時」に備えて

Prepare for a disaster that suddenly attacks

富士見市の災害

東日本大震災以降、広島土砂災害、熊本地震、西日本豪雨など全国各地で大規模な災害が発生しました。市でも、東日本大震災時は帰宅困難者の発生や計画停電などがありました。

また、千葉県を中心に大きな被害があった今年9月の台風15号は、暴風による建物被害などに加え、長期的に断水や停電が発生するなど、さまざまな形で日常生活を脅かしました。

当市は、荒川・新河岸川・柳瀬川という3本の大きな川が流れ、その地勢により古くから水害に見舞われてきました。近年では、平成28年台風9号、平成29年台風21号により市内で浸水被害が発生しました。豊かな自然は私たちに安らぎ



昭和57年に発生した水害(水谷東)

安心安全課 ☎ 446

試される私たちの「自助・共助」

大切なのは市民一人ひとりが協力すること

防災を考えるにあたり、大切なのが「自助・共助・公助」です。「自助」とは、災害発生時の避難路の確保や食料の準備など、家庭でできる日ごろの備えを充実させ、自らを自らの力で守ることを指します。

「共助」とは、地域の方々と協力して消火活動などを行うことや、自力で避難できない方を支援するなど、周囲の方々と助け合うことを指します。

また、自治体や消防・警察による災害時の公的な支援を「公助」といい、自助・共助・公助が緊密に連携することで、地域の防災力が飛躍的に向上します。これまでの災害が残した教訓に、すべての被災者を自治体だけで支援することが難しいこと、

を与えてくれますが、時として表情を一転させます。市内を流れるいずれの河川も、増水で氾濫した場合、市でも大きな被害が想定されています。大規模な洪水災害、そして、今後30年間の発生確率が70%で、マグニチュード7.3の揺れが予想されている東京湾北部地震のような地震災害に対しても、市民と行政が一体となって備えを行う必要があります。

公的機関も被害を受けることでその機能の一部が麻痺する場合があります。そこで発揮されるのが、「自助・共助」です。公助だけに頼らず、日ごろから準備し、訓練を受け、自助・共助を意識することが地域の被害を食い止めることにつながるのです。

非常用持出品

非常用持出袋	現金(小銭)	ヘルメット	レインコート
健康保険証	通帳	カード	印鑑
持出品の食料の例	非常食	かんぱん	飲料水

【家具転倒防止器具取付け支援】

単身の高齢者や障がいのある方に、つっぱり棒や安定板などの家具転倒防止器具の取付け支援を実施しています。詳しくはお問い合わせください。

【富士見市防災ガイドブック】

地震や洪水などの災害への備えや対処方法、ハザードマップ、避難所、防災情報の入手方法などをまとめ、発行時に全戸配布しました。希望者には、安心安全課で配布しています。

【避難所と家庭の備蓄】

避難所の備蓄食料は、家の倒壊などにより避難所で生活しなければならない方の人数を想定して備蓄しています。災害時、避難所の食料が不足する場合や自宅などで避難生活を送る事も考え、各家庭で最低3日分の食料などを備蓄しておきましょう。

【土のうについて】

市では、水害に備え土のうを備蓄し、無料で配布しています(市による個別の配送などは実施していません)。



出典：防衛省ホームページ

野外入浴セットによる足湯体験



地震体験車



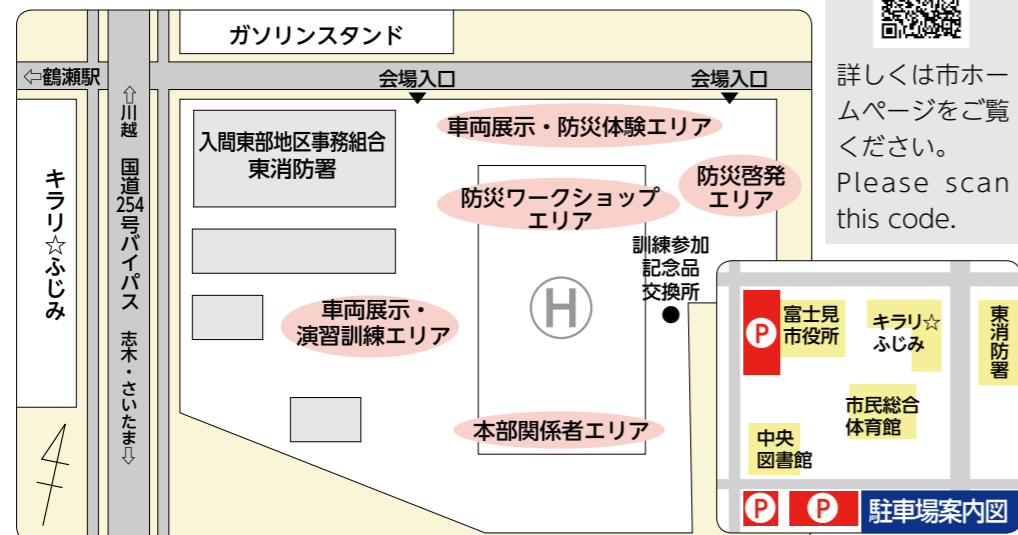
一斉放水



油圧救助器具を用いた救出訓練

富士見市総合防災訓練 ～防災フェア～ 会場案内図 場所/東消防署(鶴馬1850-1)

- ・小雨決行。場合により内容を一部縮小して開催
- ・どなたでも参加できます。 ・手話通訳あり



スケジュール

10:00 ~ 10:15	開会式
10:15 ~ 13:45	各種体験訓練 10:30~ 炊き出し訓練 13:00~ 演習訓練
13:45 ~ 14:00	閉会式

防災啓発エリア

- ・防災用品展示
- ・災害用伝言ダイヤル体験
- ・ペット防災
- ・液体ミルク展示
- ・カレー炊き出し500食
- ・応急手当講習 など

車両展示・防災体験エリア

- ・降雨体験車
- ・水圧扉・水路歩行体験
- ・地震体験車
- ・野外入浴セットによる足湯体験
- ・給水車展示 など

車両展示・演習訓練エリア

- ・はしご車搭乗体験
- ・情報収集・伝達訓練
- ・トリアージ、応急手当訓練 など
- ・道路啓開(がれき撤去)訓練
- ・救出訓練、初期消火訓練 など

防災ワークショップエリア

- ・ジャッキアップゲーム
- ・毛布担架体験
- ・応急手当ワークショップ など
- ・防災カードゲーム
- ・家具転倒防止ワークショップ など

総合防災訓練の目的

総合防災訓練とは、行政や関係機関、各種団体などが連携して行う防災訓練です。本訓練も、市、入間東部地区事務組合消防本部、地域団体などが協力して開催します。協力して開催することで各々の役割や優先事項を確認することができ、非常時には関係機関が連携した迅速な災害対応が期待できます。

着実に、そして楽しく自助・共助力を高める防災フェア

本訓練では、自助・共助力を高める取組みを多く盛り込んでいます。防災関係事業者による防災用品の展示や災害用伝言ダイヤル、水消火器による消火訓練などの体験に加え、市で最も被害が懸念される水害を想定した豪雨を体験できる降雨体験車や、浸水時の扉の開けにくさや歩きにくさがわかる水圧扉・水路歩行訓練などもあります。

さらに、お子さんと保護者が一緒に楽しく防災に触れられるようゲーム形式で学べる防災ワークショップや液体ミルクの展示、はしご車搭乗体験、炊き出し訓練、足湯体験など、さまざまな防災体験ができます。

訓練のクライマックスは、富士見市災害対策本部、消防、警察、町会、自主防災組織、災害協定締結団体などの機関が連携した演習訓練です。重機を用いたがれきの撤去、町会・自主防災組織による負傷者の救出搬送や消火訓練などの後、救助犬による要救助者の搜索、消防署と消防団による救出活動、消防車からの一斉放水が行われ、災害時の連携を間近で感じられます。

本訓練のテーマは、誰もが気軽に体験できること。突如襲いかかる「その時」、誰も傍観者でいることはできません。自らを、そして大切なものを守るよう、さまざまな訓練を主体的に体験し、防災意識を高めましょう。

富士見市 総合防災訓練

防災フェア、11月24日(日) 午前10時



消防士・警察などのなりきり体験



降雨体験車による豪雨体験訓練(イメージ)



ペット向けの非常用持出品例(ペット防災)



トリアージ、応急手当訓練



出典：防衛省ホームページ
炊き出し訓練



水圧扉体験

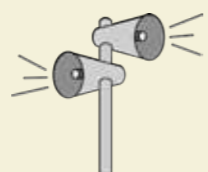


はしご車搭乗体験

【防災行政無線電話応答サービス】

防災行政無線の放送を聞き逃してしまった場合でも、下記に連絡することで放送内容を確認できます。

☎049-265-3030



【災害で家屋が破損したら…罹災証明書の発行】

被災者からの申請により家屋を調査し、「全壊」「大規模半壊」「半壊」「一部損壊」などを証明するものです。各種支援を受けるために必要となる場合があります。火災は東消防署(☎049-255-4119)、落雷を除く各災害は安心安全課にお問い合わせください。

【自主的な情報収集】

災害時は、さまざまな方法で情報収集に努めましょう。

- ・テレビやラジオ
- ・インターネット
- ・防災メール
- ・スマートフォンアプリ
- ・防災行政無線
- ・市ホームページ
- ・SNS
- など

【防災メール】

災害時の避難情報や避難所開設などの情報を配信する防災メールに、右記コードから登録ください。

